二〇一八年八月二〇日（月）

臥牛サロン 第二回

能 羽衣 の物語

プロデュース　田崎甫（宝生流能楽師）

於 臥牛敷舞台
富士宮市粟倉南町一三二
舞台当主　高橋千洋（富士宮市中央町在住）
運営　たのじ合同会社（富士市青島町）

進行・シテ　田崎甫
地謡　葛野りさ（かどの）

一　ワキ次第 名乗り・ご挨拶
二　仕舞［羽衣］天女と白竜の問答［説明・仕舞］
三　仕舞［羽衣］クセ［説明・仕舞］
四　仕舞［羽衣］キリ［説明・仕舞］
五　サロンタイム

［羽衣］
場所・季節＝静岡県、春
シテ＝天女
ワキ＝漁夫白竜　ワキツレ二人＝漁夫

出演者

田崎甫（はじめ）

1988年 神奈川県生まれ、叔父の宝生流能楽師 田崎隆三に師事。2011年 東京藝術大学音楽学部邦楽科を卒業し、20代宗家宝生和英の内弟子に入る。同年「金札」で初シテ。2018年内弟子を終え職分となる。富士宮にて「羽衣教室」を主宰。九段にて「幸宝会」を主宰。

葛野りさ（かどの）

平成元年生まれ、富山県富山市出身。20代宗家宝生和英に師事。平成23年東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。平成24年「清経」ツレにて初舞台を踏み、平成29年「田村」で初シテを勤める。

臥牛サロン

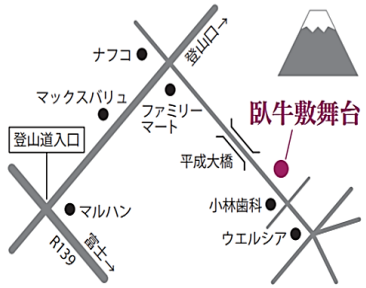
9月17日（月）18:30〜能「羽衣」の物語
※９月は日にちが一日繰り上がりました。(旧:9/18)
10月29日（月）18:30〜能「●●」の物語

お稽古：羽衣教室基礎コース [臥牛敷舞台]

9月10日（月）13:30〜
9月17日（月）15:00〜
10月 8日（月）13:30〜
（個人レッスン、謡・仕舞）
※見学歓迎

臥牛敷舞台

富士宮市粟倉南町132
臨時駐車場：裏手に隣接の空き地



ホームページ：
田崎甫「能への一歩」
http://www.noh-ippo.jp

田崎甫「羽衣教室」「臥牛サロン」お問合せ先

☎ 0545-38-9939 (たざき)
Fax 0545-67-5588
メール：hajime-noh-ippo@outlook.jp
運営：たのじ合同会社（代表 田嵜玄吾）
〒417-0047　静岡県富士市青島町１９５番地の３
グレース富士603号

ワキ次第・名乗り

ワキ「風早の。三穂の浦回をこぐ舟の。浦人さわぐ。浪路かな。
ワキ「これは三保の松原に。白竜と申す漁夫にて候。
ワキ「われ三保の松原にあがり。浦の景色を眺むる所に。虚空に花降り音楽聞え。霊香四方に薫ず。これ唯事と思はぬ所に。これなる松に美しき衣かゝれり。寄りて見れば色香妙にして常の衣にあらず。いかさま取りて帰り古き人にも見せ。家の宝となさばやと存じ候。

シテの登場 ワキとの問答

シテ「なうその衣はこなたのにて候。何しにめされ候ふぞ。
ワキ「これは拾ひたる衣にて候ふ程に取りて帰り候ふよ。
シテ「それは天人の羽衣とて。たやすく人間にあたふべき物にあらず。元のごとくに置き給へ。
ワキ「そも此衣の御ぬしとは。さては天人にてましますかや。さもあらば末世の奇特にとゞめおき。国の宝となすべきなり。衣をかへす事あるまじ。
シテ「かなしやな羽衣なくては飛行の道も絶え。天上にかへらんことも叶ふまじ。さりとては返したび給へ。
ワキ「此御詞を聞くよりも。いよいよ白竜力を得。

地「本より此身は心なき。天の羽衣とりかくし。かなふまじとて立ちのけば。
シテ「今はさながら天人も。羽根なき鳥の如くにて。あがらんとすれば衣なし。
ワキ「地にまた住めば下界なり。
シテ「とやあらんかくやあらんと悲しめど。
ワキ「白竜衣をかへさねば。
シテ「力及ばず。ワキ「せんかたも。
地「涙の露の玉鬘。かざしの花もしをしをと。天人の五衰も目のまへに見えてあさましや。
シテ「天の原。ふりさけみれば。霞たつ。雲路まどひて。ゆくへ知らずも。
地「住み馴れし空にいつしかゆく雲のうらやましきけしきかな。迦陵頻迦のなれなれし。迦陵頻迦のかへりゆく天路を聞けばなつかしや。千鳥鴎の沖つ浪。ゆくか帰るか春風の　空に吹くまでなつかしや　空に吹くまでなつかしや。
ワキ「いかに申し候。御姿を見たてまつれば。あまりに御痛はしく候ふ程に。衣をかへし申さうずるにて候。
シテ「あらうれしやこなたへ給はり候へ。
ワキ「しばらく。承り及びたる天人の舞楽。たゞ今こゝにて奏し給はゞ。ころもをかへし申すべし。
シテ「嬉しやさては天上にかへらん事をえたり。此悦にとてもさらば。人間の御遊のかたみの舞。月宮をめぐらす舞曲あり。たゞ今こゝにて奏し

声そへてかずかずの。笙笛琴箜篌孤雲の外に満ち満ちて。落日の紅は蘇命路の山をうつして。緑は浪に浮島が。払ふ嵐に花ふりて。げに雪をめぐらす白雲の袖ぞ妙なる。
シテ「南無帰命月天子本地大勢至。
地「東遊の舞の曲。
シテ「あるひは。天つ御空の緑の衣。
地「又は春立つ霞の衣。
シテ「色香も妙なり乙女の裳。
地「左右左。左右颯々の。花をかざしの天の羽袖。なびくもかへすも舞の袖。

羽衣 キリ

地「東遊のかずかずに。東遊のかずかずに。その名も月の色人は。三五夜中の空に又。
満月真如の影となり。御願円満国土成就。七宝充満の宝を降らし。国土にこれを。ほどこし給ふさるほどに。時移つて。天の羽衣。浦風にたなびきたなびく。三保の松原浮島が雲の。愛鷹山や富士の高嶺。かすかになりて。天つ御空の。霞にまぎれて。失せにけり。

つゝ。世のうき人に伝ふべし　さりながら。衣なくては叶ふまじ。さりとては先かへし給へ。
ワキ「いや此衣をかへしなば。舞曲をなさで其ままに。天にやあがり給ふべき。
シテ「**いや疑は人間にあり。天に偽なきものを**。
ワキ「いや此衣をかへしなば。舞曲をなさで其ままに。天にやあがり給ふべき。
シテ「乙女は衣を着しつゝ。霓裳羽衣の曲をなし。
ワキ「天の羽衣風に和し。
シテ「雨に湿ふ花の袖。
ワキ「一曲をかなで。
シテ「舞ふとかや。

羽衣 クセ　（東遊の駿河舞）

地「春霞。たなびきにけり久かたの。月の桂も花やさく。げに花かづら色めくは春のしるしかや。おもしろや天ならで。こゝも妙なり天津風。雲の通路吹きとぢよ。乙女の姿。しばし留りて。此松原の。春の色を三保が崎。月清見潟富士の雪いづれや　春のあけぼの。たぐひ浪も松風ものどかなる浦のありさま。そのうへ天地は。何を隔てん玉垣の。内外の神の御末にて。月も曇らぬ日の本や。
シテ「君が代は。天の羽衣まれに来て。
地「撫づとも尽きぬ巌ぞと。聞くも妙なり東歌。